

ベトナム災害対策事業

2014年 事業報告書



7 km に及ぶハイフォン市のマングローブ林@IFRC

Overview

ベトナム災害対策事業の第4事業年度となる2014年は、約1万人の方に対し、災害の被害から身を守るための支援を提供しました。

防波林として高潮や洪水からコミュニティーを守るマングローブは、一部のコミュニティーで新規植林が行われましたが、その他のコミュニティーでは、補植・保護管理に力が注がれました。

学校教育を通じた防災教育では、約4千人の児童・生徒が防災について学びました。各コミュニティーでは、小規模な建設等を伴う災害被害軽減活動が行われたほか、防災訓練には約1万人が参加しました。

2015年3月30日

首都：ハノイ

言語：ベトナム語

人口：約9,170万人（2013年時点）

ベトナム社会主義共和国

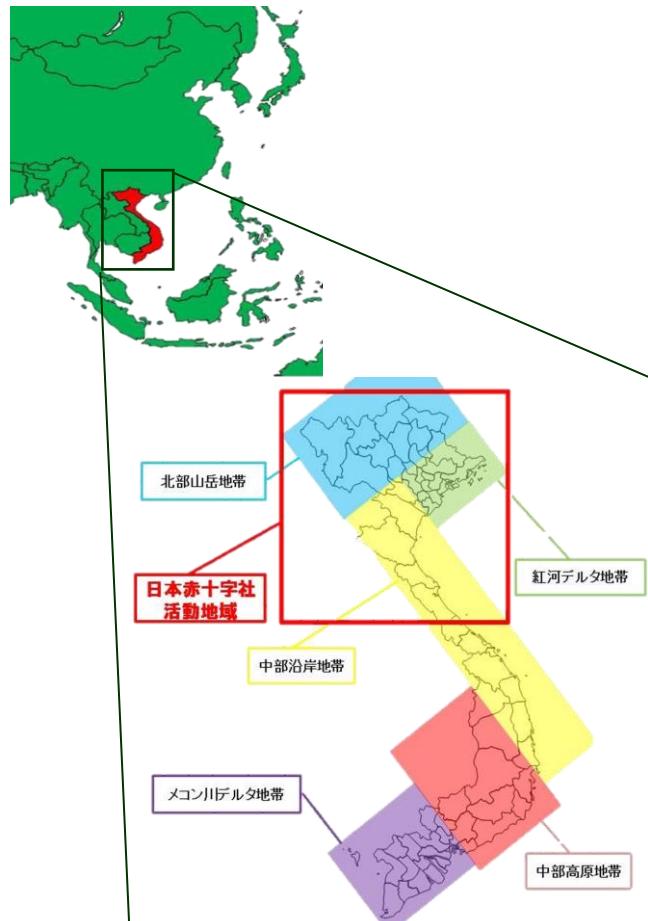


面積：32万9,241平方キロメートル

宗教：仏教、カトリック、カオダイ教他

【1.ベトナム社会主義共和国の概要】

- ベトナムは、国土が南北に 1650 km、東西に 600 km という縦長の国である。国土が縦に長いことから、地域によって気象条件が大きく 5 つに大別される。
- その中で、ベトナム北部に位置する、「北部山岳地帯」「紅河デルタ地帯」「中部沿岸地帯」の 3 つ地域には、毎年 6~8 つの台風が襲来し、強風・高波による経済的損失は GDP の 1.5%にも上るとされている。
- これらの地域は、1990 年代に比べて、0.5% ~0.7% 気温が上昇しており、それに併せて海面も 10%~15% 程度上昇していることが被害を拡大させている要因の一つとされている。
- アジア開発銀行 2012 年報告書によれば、今後 2020 年~2080 年の間に、平均 2.7 度気温上昇し、平均雨量は 2~6% 増加、海面は 7~56cm 上昇すると見積もられている。また、海面が 50~100 cm 上昇すれば、ベトナム北部紅河デルタ地帯の 4.1~10% の土地と 3.4~9.4% の人口（約 57 万 8 千人~159 万 8 千人）が被害を受けることも指摘されている。



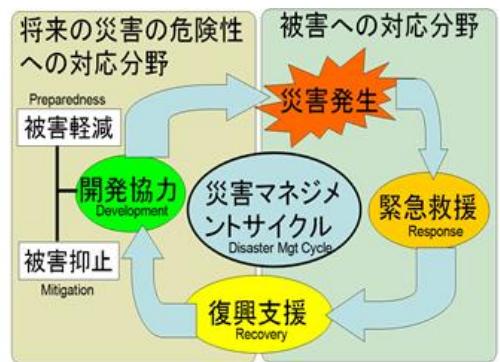
【2. 日本赤十字社の災害対策について】

- 日本赤十字社（以下、日赤）は、この様に気候変動と災害に脆弱且つ災害多発国であるベトナムにおいて、1997 年から国際赤十字・赤新月社連盟（以下、連盟）及びベトナム赤十字社（以下、ベトナム赤）と共に災害対策事業を開始。
- ここでいう「災害対策」とは、緊急支援・復興支援での対応だけでなく、災害が発生した時に、その被害を軽減するために平時から災害に強い社会づくりをする活動のことを指す。
- 通常外的な要因である災害そのものを止める事は、特に自然災害の場合はほぼ不可能だが、①災害に対する認識を高め、②どの様に災害が発生するのかを十分に理解した上で、③脆弱性を下げ、④防災力を向上することで、災害を防ぎ、あるいは災害を軽減することは可能である。このような平時の活動を日赤は開発協力としてベトナムの災害対策事業で展開している。

- 上述の開発協力は大別して以下の活動に分けられる。

①災害抑止：災害による被害の発生を防ぐための活動（例：防波林としてのマングローブ植林）

②災害軽減：災害により被害が発生することを前提にその対処のための準備をすること（例：救援物資の備蓄や防災訓練の実施）



- いずれの場合も、住民や赤十字スタッフ、ボランティア自身が、災害の危険性と発生する被害について十分理解することが重要となる。

【3. 日本赤十字社のベトナム災害対策事業について】

- 日赤は、1997年から2014年までの18年間で、ベトナム赤を通じて、7億879万円の支援をし、同国の8省においてこれまで10,363ヘクタール（東京ドーム2,216個に相当する面積）に及ぶ土地にマングローブと森林を植林・補植してきた。
- 2011年には新たに第4次5ヵ年計画が締結され、マングローブを植林できる土地が残りわずかであることから、土砂崩れの危険性が高い内陸部の2省を新たに加えた10省を対象に、地域の防災ボランティアを養成し、災害への対応能力を高めるための防災教育を中心とした活動が展開されている。
- 日赤は今後2015年まで、過去18年に渡って植林してきたマングローブと森林を住民が守り育むことを支援するとともに、全ての事業地において住民を対象とした防災教育普及に重点を置いて事業を実施していく予定。



【4. ベトナム災害対策事業 第4次5カ年計画について】

- 日赤が支援する2011年から2015年までの5カ年計画事業（以下、ベトナム災害対策事業）は、連盟の基本方針に基づき、自然災害及び気候変動に対してより安全でより強靭なコミュニティーを築くことを目標としている。
- 事業地 10省 72県 356 コミュニティーで当該目標達成のための支援を展開しており、2015年までの5年間で10省総人口12万5千人の直接受益者と、200万人の間接受益者に支援の手が差し伸べられる予定。



第4次5カ年支援事業を実施している10省

【ベトナム災害対策事業 第4次5カ年計画 （概要）】

事業実施社：ベトナム赤十字社

事業期間：2011年（平成23年）1月～2015年（平成27年）12月

対象地域：ベトナム社会主義共和国

クアンニン省、ハイフォン省、タイビン省、ニンビン省、ナムディン省、タンホア省、ニエアン省、ハティン省、ホアビン省、ビンフオック省

合計 10省 72県 356 コミュニティー

事業費総額：5年間で2億1500万円（予定）

上位目標：事業地に選定された災害に脆弱なコミュニティーが、2015年までに災害によるリスク及び気候変動によるインパクトから守られ、災害からの回復力がより高まる。

目標 1：効率的に山間部の森林植林活動及び沿岸部のマングローブ林保全等を実施するため、事業対象コミュニティーの能力を強化する

目標 2：災害リスクや気候変動の影響から自らを守れるよう、コミュニティーの能力を強化する

目標 3：持続可能なコミュニティー主体の災害リスク軽減活動を効率的に企画立案し、活動できるよう、ベトナム赤十字社の組織基盤を強化する

【5. 2014 年 活動実績】

(1) 上位目標

事業地に選定された災害に脆弱なコミュニティーが、2015 年までに災害によるリスク及び気候変動によるインパクトから守られ、災害からの回復力がより高まる。

(2) 目標1

効率的に山間部の森林植林活動及び沿岸部のマングローブ林保全等を実施するため、事業対象コミュニティーの能力を強化する。

① 2014 年の活動

- 森林を保護、管理するパートナーを決定する。
- コミュニティーの森林保護チームを構成し、研修を実施する
- ニンビン省において 24.6 ヘクタールのマングローブ植林。ハティン省、ホアビン省、ピンフォック省で 25.6 ヘクタールの森林を保全。
- 事業実施地域の支部へのモニタリング及び技術支援



ピンフォック省の保護林モニタリングの様子@IFRC

② 2014 年の活動成果

- ニンビン省で、24.6 ヘクタールに 955,562 本のマングローブが植林（218人が参加）。ハティン省、ホアビン省、ピンフォック省で 25.6 ヘクタールの森林が保全された。これらの 4 省で 2012 年から植林してきたマングローブ林は合計 115.6 ヘクタールとなった。ピンフォック省の保護林は生長が早く、現在全長5メートルまで成長している。
- 10 省の 86 人のコミュニティー赤十字職員及びボランティアは、約 9,000 ヘクタールのマングローブ林、保護林を適切に管理している。クアンニン省では植林したマングローブが増殖し、マングローブ林が 20 ヘクタール拡大した。
- ハティン省、ピンフォック省の 13 コミュニティーの 170 人の森林保護チームのメンバーにレインコート、長靴等の森林保護用の資材が供与された。

森林の植林・保全

- 955,562 本のマングローブの新規植林 (24.6ha)
- 25.6ha のマングローブ・保護林を保全
- 合計 9,000ha のマングローブ・保護林を適切に管理

③ 課題

- 特になし。2014 年は大きな暴風等がなかったため、ニンビン省に植林した若い苗木が流されてしまうこともなかった。

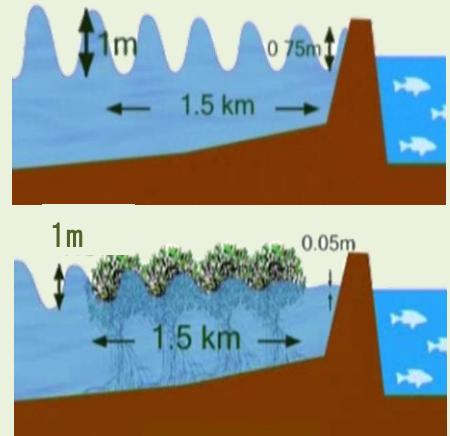
マングローブの重要性

沖合 1.5Km 地点で 1m の波が発生した場合、何も遮るもののがなければ、岸到着時の波の高さは 75 cm になる。一方、十分に成長した防潮効果のあるマングローブを植えた場合、波がマングローブにより碎かれ岸にたどり着くときには、2~5cm まで小さくなる。

ベトナムにはもともと多くのマングローブが植わっていたが、戦争や輸出用のエビ養殖池の拡大による伐採など様々な理由から、1980 年代後半までにその数は半減。

マングローブが無くなった影響で、台風時には高波が堤防を越えて町や村まで押し寄せ、人命や財産を奪い去り、近年は気候変動による影響でその被害が増している。

マングローブを再び育て、その重要性を住民に周知し、住民自らが守り育っていくことは、災害による被害を大きく減らす上で重要な活動となる。



(3) 目標2

災害リスクや気候変動の影響から自らを守れるよう、コミュニティーの能力を強化する。

① 2014 年の活動

- 学校教師及び児童を含む住民に対して、防災・気候変動に関する知識を普及する。
- 一部の地域において災害への脆弱性と活動実施能力の評価手法調査（以下、VCA）を実施、また昨年度実施した VCA の見直しを行う。
- 防災対策の実施
- 災害対応ユニットへの研修
- 早期警報システムの供給
- 防災訓練の実施
- メディア等を通じた防災・気候変動に関する知識の普及



防災について学ぶ児童@日本赤十字社

② 2014 年の活動成果

- ・ 490 人のコミュニティ代表に対して、23回の防災・気候変動（気候変動、災害対応計画の立て方、VCA の概要）に関する研修を実施。
- ・ 160 人の小学校（15 校）教師に対して、8回の防災・気候変動に関する研修を実施。防災知識に加え、参加型教育の手法、教材の活用法等も学習。
- ・ ナムディン省、ホアビン省の 12 の小学校及び中学校で、3,915 人の児童が防災教育を受け、両親にもその知識を伝達した。
- ・ 6 省 24 のコミュニティで、4,759 人の住民が参加し、VCA が更新された。VCA の結果は活動の資金獲得のために今後活用される。
- ・ VCA 結果に基づき、ベトナム赤十字部は 16 の小規模な災害被害軽減活動を支援し、26,201 人が裨益。活動内容は以下のとおり。

- ✓ 暴風時避難用のコミュニティハウスの建設：タンホア省
- ✓ 幼稚園の建設：ホアビン省
- ✓ 水浄化システムの設置：ホアビン省、タイビン省
- ✓ 排水システムの設置：クアンニン省、ニエアン省、
- ✓ 拡声器システムの設置：ハイフォン市、ニエアン省、
- ✓ ゴミ収集用資機材及びトイレ建設：ビンフォック省

防災・気候変動の 知識普及

-  コミュニティー赤十字職員 490 人
-  教師 160 人
-  小学生 3,915 人

VCA・ 災害被害削減 活動

-  24 コミュニティーで VCA 更新
-  16 の被害削減活動により、26,201 人が裨益

- ・ 17 のコミュニティの災害対応ユニットメンバー 430 人に対して、防災及び災害対応の基礎研修を実施した。クアンニン省の災害対応ユニットは、2014 年の台風カルマエギがベトナムに来襲した際には、災害対応のため動員された。

災害対応訓練・ 防災訓練

-  災害対応ユニット 430 人に訓練実施
-  住民 9,961 人が防災訓練参加・見学



救援物資を避難所に配布する訓練の様子@IFRC

- 早期警報システムのニーズ調査に基づき、6つの早期警報システムを強化。停電時に備えて発電機が備え付けられたほか、より広い範囲に届くよう追加のスピーカーが備え付けられ、12,041人の住民に対して災害時に適切な警報と避難指示を提供できるようになった。
- リーフレットや拡声器システム（コミュニティーレベル）や、テレビニュース、雑誌、新聞（支部レベル）、国営テレビ VTV1de（本社レベル）など、各レベルで入手できる様々なツールを活用し、防災・気候変動についての知識や事業の目的等について普及を行った。

早期警報システムの整備

 住民 12,041 人を対象に災害情報が発信できる

③ 課題

- 昨年本事業の中で研修を実施したものの、ベトナム赤十字会員（赤十字担当）のボランティア運営、新規ボランティア募集の能力に課題がある。（十分な予算及び明確な計画がない）

（4）目標3

持続可能なコミュニティ主体の災害リスク軽減活動を効率的に企画立案し、活動できるよう、ベトナム赤十字社の組織基盤を強化する。

① 2014年の活動

- ベトナム赤十字会員に対する企画立案・モニタリング・評価・報告書作成の研修実施
- ベトナム赤十字会員が資金管理及び会計報告を正確に実施できるよう支援
- ボランティア運営及びリクルート能力を強化
- ベトナム赤十字会員の資金確保に関する知識を向上

②2014年の活動成果

- 15人のベトナム赤本社職員、10人の支部職員が企画・モニタリング・評価・報告書作成にかかる研修を受講。
- 連盟がベトナム赤の新事業担当者を支援。
- 持続発展性を高めるための戦略及び計画の作成。
- タイ赤十字社職員15名及び日本赤十字社からの訪問団2団を受け入れ、事業紹介を実施した。タイ赤十字社でも本事業を実践したいとのコメントを得た。

ベトナム赤職員への研修

- 25人が企画・モニタリング・評価研修を受講
- 持続発展性戦略の策定

③課題

- ベトナム赤の事業担当者の変更により、年次会議が2015年1月に延期、事業のウェブページの作成やジャケットの調達などの活動が2015年4月に延期されるなどの弊害が生じた。



日赤北関東支部訪問団がハイフォン市の小学校を訪問@IFRC

【6. 2014年活動の受益者】

2014年1月～12月の1年間の活動では、10,262人に対して、災害の軽減策、防災知識の普及等の支援を実施。そのうち、2,140人が活動そのものに参加することで、直接的な利益を享受した。

【7. 長期的なインパクト】

(1) マングローブ・保護林による災害抑止・気候変動への効果

- これまで植林・保全されたマングローブの林は、堤防の保護、沿岸地域の環境保全、二酸化炭素の吸収を通じた気候変動の軽減、土壤の肥沃化と水産養殖の役割、高潮や暴風の威力の軽減等、幅広いインパクトを生み出している。

(2) 地元住民の災害対応・防災能力の向上

- コミュニティー住民は、自然災害への対応や防災活動に、より活発に参加するようになってきている。小規模災害被害軽減活動や、防災訓練、災害対応ユニットは住民の命を守るために重要な役割を果たしている。また、事業に関わるベトナム赤職員やボランティアは、住民の意識啓発（自然資源の保護、水や環境の衛生の重要性等）にも大きな役割を果たしている。

- ・ コミュニティーでは、今後さらに災害対応ユニットの能力や早期警報システムの機能を高めていくことでコミュニティーの脆弱性を弱めていくことが期待される。また、地元行政においては、防災事業を優先事項と位置づけ、独自財源で防災活動を実施することが期待される。

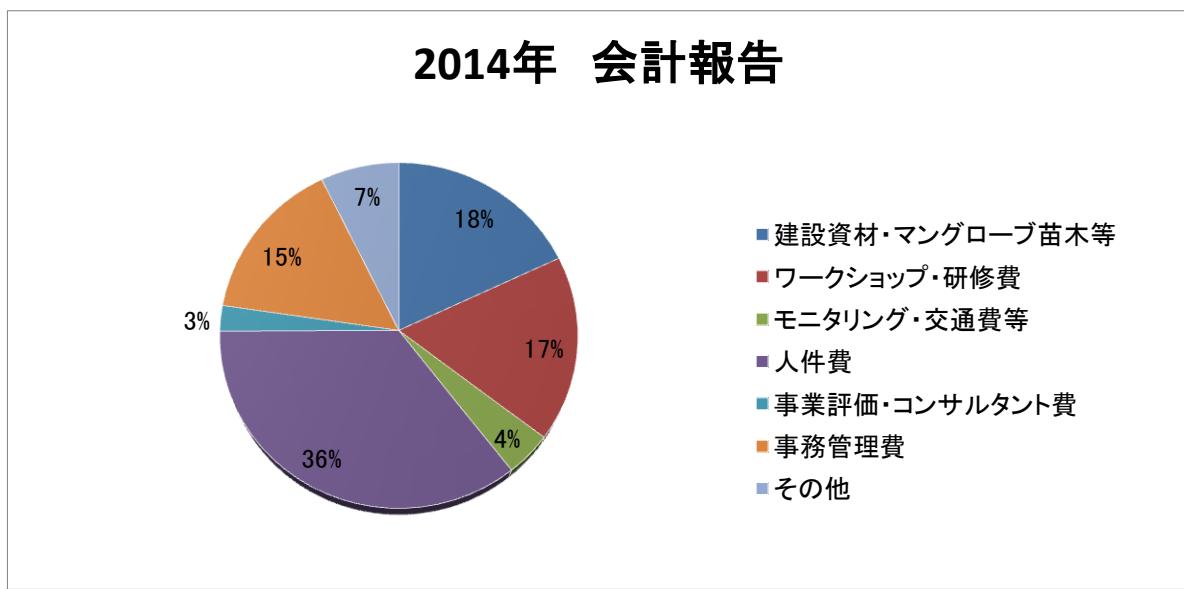
(3) ベトナム赤の能力向上、組織基盤強化

- ・ 資金調達やボランティア部門の強化は、事業の中で意識的に取り組まれるようになっており、支部やコミュニティーの防災・災害対応の能力が強化されている。今後ベトナム赤支部がさらにボランティア管理や資金調達の能力を強化していくことが期待される。

【8. 2014年：会計報告】

日赤は2014年の活動に対して402,290スイスフラン（46,911,039円相当）の事業資金を、連盟を通じてベトナム赤に送金。2014年は、一部活動の実施が遅れていることから執行率は87%となっている。遅延した活動は2015年4月に実施予定。

2014年度予算額 (スイスフラン)	2014年度支出額 (スイスフラン)	繰越金額 (スイスフラン)
402,290	339,221	63,069



～ みなさまのご支援ありがとうございます～

日本赤十字社の国際活動についてはホームページにも掲載しています。是非ご覧ください。

URLはこちらです：(<http://www.jrc.or.jp/kokusai/index.html>)